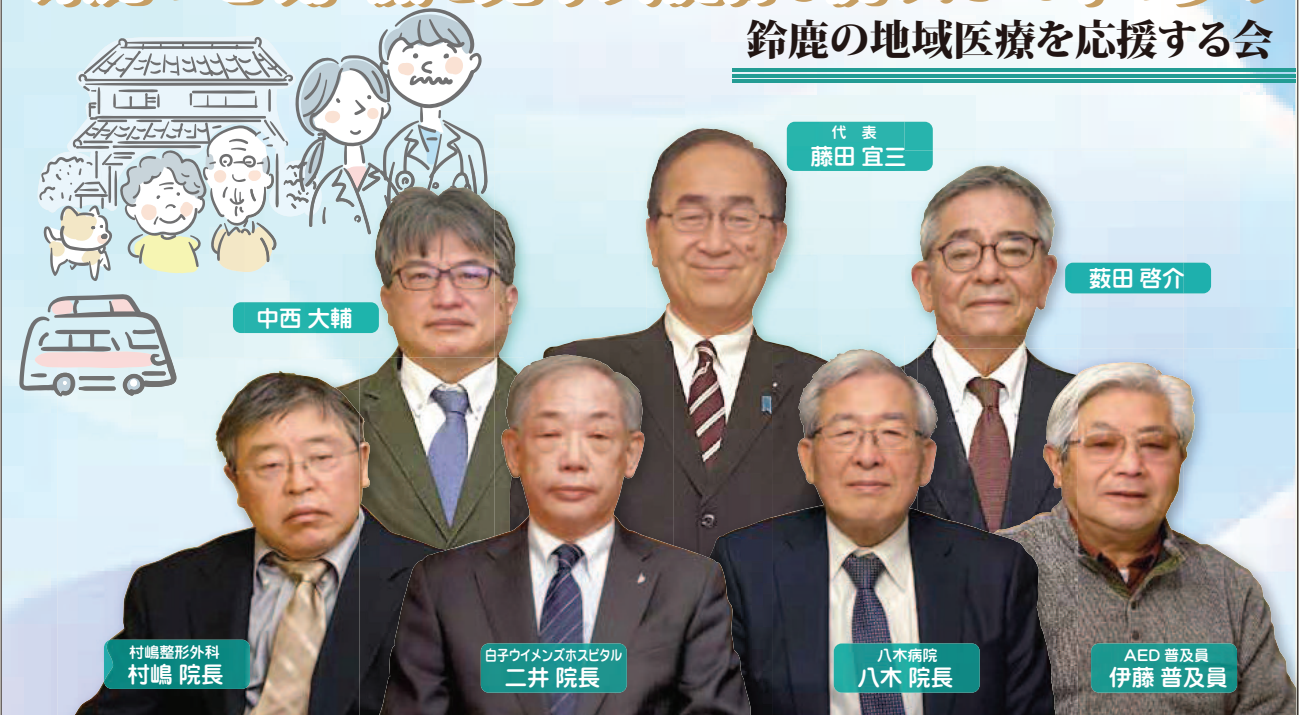


鈴鹿の地域医療を見守り、提言し続けた16年の歩み

鈴鹿の地域医療を応援する会



経緯とご挨拶 鈴鹿の地域医療を応援する会

平成18年6月に地域医療について現状把握、課題の明確化、その解決策の提言を行政に行う目的で「鈴鹿の地域医療を応援する会」を立ち上げました。

現在のメンバーは三重県議会議員の藤田宜三を代表として、鈴鹿市議会議員の藪田啓介、中西大輔、現役の医師として白子ウイメンズホスピタル院長の二井栄、八木病院院長の八木秀行、村嶋整形外科院長の村嶋洋司、AEDの使用の指導を地域で行っている伊藤智章、市内の坂下正明、樋口政司の有志で、16年間月1回のペースで会議を開き、発足時には全国的な救急車の「たらい回し」が問題となり鈴鹿市での調査を始めました。

救急車のたらい回しや病院の受け入れ拒否の原因としては鈴鹿市の救急医療体制が整備されておらず、二次救急病院へ一次救急患者が押し寄せている状況でした。

その改善策として入院を必要としない軽症患者を受け入れる一次救急病院として高木・村瀬・塩川の3病院に協力を求め一次救急医療制度を実施することができました。

重傷患者受け入れ二次救急病院、鈴鹿中央・回生の2病院では勤務医と医療スタッフ不足があり、その解決策として病院による当番制を提案し実現できました。

また、当会議で出された情報を市民の皆様と共有する為、地域で27回に及ぶ説明会を開催し、皆様のご意見を聞き取りながら、鈴鹿市また三重県の行政に改善提案を行いました。

その中では小児救急に関心が高く、本会発足前に会員の提案により、鈴鹿市が医師会と薬剤師会の協力により応急診療所

(1次救急)が開設され、土日祝祭日の昼間と夜間の22時30分までの小児救急対応が可能となりました。

それ以降の小児科の24時間対応の体制が無かったので、整備要望の署名(約6500筆)を集め末松則子市長に提出しました。



▲市長から知事へ提言書を提出しました

市長からの三重大学への要望に対し、鈴鹿中央総合病院に小児科の医師の増員をする事が出来ましたが、鈴鹿市において24時間2次小児救急体制を確立するまでには至っておりません。

“子供を安心して、産み、育て、充実した教育を保障する” “病気、怪我の時に安心してかかれる病院がある”この体制をつくる為には専門家の意見は勿論、市民の皆様のご意見、ご協力を頂きながら、地域医療の充実に向け今後も活動を続けてまいります。

鈴鹿の地域医療を応援する会 代表 **藤田 宜三**